

医療に対しての考え

西脇中学校 三年 村上 昌暉

僕は今までに病院にお世話になったことが何回もあります。インフルエンザになった時や、骨折をした時などに病院に行くと、毎回のように待ち時間が長い、と思っていました。

しかし、社会科の授業を受け、地域医療講演を聞いて、今までの態度を見直さないといけない、と思いました。確かに自分が幼かったということもありますが、診察を受ける「客」のように感じていた部分があるからです。

医療は地域を支えるものの一つであり、安心して生活するには欠かせない存在です。そんな医療を大切にしていくには、診察をしてもらおう側の考え方も大切だと思います。サービスを受ける「客」ではなくて、診察してもらえらるとに感謝できるような人に、僕はなりたいです。医療に対する思いが変われば、医療そのものも変わると思えます。医療が変われば地域も変わるのではないか、そういう風にも考えるようになりました。

結局、医療と地域、そして地域の人々はつながり合っているのだと思います。医療、そして地域のためにできること。それは医療に対しての思いやりの心を持つこと、僕はそう考えました。思いやりの心を持つことで、本当に診療が必要かどうかを考えることができ、本当に困っている人を救うことにもつながると思います。また、思いやりというものがその行動を起こすきっかけとなるのではないのでしょうか。地域の人々に呼びかけることも一つの手です。でもまずは、医療に関してよく考えるということが必要なのだと思います。

医師と患者の本当の医療

西脇中学校 三年 山本 葉菜乃

医師がいない。私は、その理由が医師の心の問題や病院の問題などで患者には関係がないのだろうと思っていました。でも、原因は私たちの行動にも関係していることを知りました。

知ることが出来たのは、地域医療講演会で、西脇病院が崩壊するというギリギリの時に、一人の医師を支えたのが私たち患者の感謝の気持ちです。今まで助けてもらったことがある人、小さな子供が先生を必要とする気持ち、住民の方の想いをつなぎ、形にしたことで頑張れたそうです。それは、温かい私たちの願いと想いがこもっていたから医師の気持ちも変わり、崩壊せずに今があると私は思います。

しかし、なぜ一人にまで医師が減ってしまったのでしょうか。その原因は、私たち患者です。昼間をさけて夜間を選び診察に行くような行動です。これは、私たち患者にとって待ち時間が少なく都合のよいことです。一方、医師や看護師にとってはどうでしょう。人数が少ない中でも夜間の診察をするとなると休む時間がありません。お医者さんも人間です。機械のように休むことなく毎日働き続けることはできません。この医師の事を考えない冷たい行動が原因です。

今、このような現状を知ってもらうために、たくさんの方が活動しています。私が医療の本当の姿を知ることができた講演会を行い、これからも生きる私たちに伝えてくださっています。本当に「今」医師を必要としている人の命を助けるためには、冷たい行動ではない温かい行動で、医師も患者も互いを想いあうことが大切なんだと思います。

将来、私は医療に関わる仕事につこうと考えています。現状を知らなかった今後の私と現状を知った今後の私では違っていると思います。今、私に出来ること、それは「小児科を守る会」の方々のように、現状をたくさん広めていくことが大切だと思います。将来がよりよくなるように今を生きていきたいと思っています。

地域医療を守るために

西脇南中学校 三年 坂部 天涼

地域医療の出前授業を受けて、西脇市の医療はこんなにも大変なことになっているということがよくわかりました。

自分たちが普通に暮らしている中、小児科の先生が年々減っていった事実を知りませんでした。

ぼくがこの話を聞いたとき、本当にすごいなと思ったことは、この事実を知ったごく普通のお母さんが西脇市の未来のために立ち上がり、ボランティア活動としてたくさんさんの署名をあつめたり、その他にもいろいろなことを行ったところがすばらしいな、すごいなと思いました。こんなことができるのは、よほどこの西脇市を助けたい、守りたいという気持ちがないとできないことだと思います。今、自分たちが何不自由なく健康に過ごしているのも、そのような活動を行った人たちがいるからだと思います。

西脇市に病院の先生がいなくなる問題にはいろいろな原因があると思います。この西脇市が若者にとって住みづらいという点があると思います。いいまちだと思いますが、まだまだより良くしていかないといけない点はあると思います。少しずつ改善できたら、それと同時に少しずつ病院の先生も増えてくると思います。

そのためにはボランティア活動をしてくださっているお母さんたちだけの力だけでなく、西脇市民がよいまちにしていこうと思いい行動することが大切だと思います。

でも実際なにをしたらいいか、自分でも分かりませんが、それを考えることが自分たちの課題だと思います。

わざわざ南中まで来てくださって、自分たちのためだけに真剣に話していただいた姿をみて、本当にこの西脇市を守りたいという気持ちがよく伝わってきました。西脇市の未来を守るのは君たちだという風に言われて、自分もこの西脇市を守らないといけないという気持ちが強くなりました。心に響きました。もう一度、地域医療についてみんなで考え、全員が西脇市を守ろうという気持ち

ちになればと思います。

地域医療のお話を聞いて

西脇南中学校 三年 石川 真由

今回、地域医療についてお話を聞く機会を頂いて本当によかったと思っています。きっと今回の機会がなければ、西脇病院の医師が減り、特に小児科では医師不足で入院患者が取れない時期があったこと。そして、その事態に耳をかたむけ、自らの意志で団体を作り守っていったという勇気を持った市民の方々がいることを知らずにこれからも生きていったと思います。西脇で生まれ育つて、病院にお世話になったことももちろんあるのに、そんな深刻な問題があったことを今まで知らなかったなんて、市民として少し情けない気持ちになりました。

お話の中で、藤田先生が

「将来の夢が自分の中で決まっている人」と問いかけられました。その時は手を挙げられなかったけど私の夢は本当は決まっています。それは小児科の先生になりたい、というものです。

私は人に必要とされる仕事がしたいと思っていて、一番必要とされるのは医師だと考えました。そして子どもが好きなので小児科の先生になりたいという夢を持つのは自然だったと思います。もちろん医師になるのは簡単なことではありません。でも努力すればなれると信じています。だから私はこれから先、たくさん勉強して必ず小児科医になります。

話は戻って、お話を聞いていて、手を挙げられなかった私ですが、心の中では強く思っていたので、まるで私へと話されているかのように思っていました。私は、医師となっても西脇に戻ってくるなんて考えてもいませんでした。でもこんな話を聞くと戻ってくるという選択肢も少し意識しました。そうすることが、今まで私を育ててくれた西脇に恩返しする方法なんだと思います。

これまでは、ただ小児科医になるという私の夢でしたが、これからは「小児科医になって故郷である西脇に恩返しする」という夢に変わりました。

西脇の地域医療を守るために

西脇東中学校 三年 藤井 真愛

病院がある。病院に行くとき先生が診察してくれる。私もこのことが当たり前になっていました。今日、四人の方からお話を聞いて、私たちが小さい頃から今まで、病気になったり、けがをしたり、風邪をひいたときに、たくさん助けてもらえたことは、この方々の強い思いから生まれた活動のおかげなんだなと思えました。私たちがここまで成長してきた中で、一度も病院にお世話にならなかった人はいないと思います。私たちが元気に成長できたのも、この活動があったからだと言っていていくらい、感謝の気持ちでいっぱいです。

約十年前から始まった活動を現在も続けてくださり、すごいなと思いました。あと五年後には、私たちも成人し、大人になっています。さらに十年後には、結婚して子供ができて、親になっている人もたくさんいると思います。そういう私たちが、ここまで活動が続けてきてくださった方々の「思い」を、受け継いでいけたらいいなと思います。

この勉強をしなかったら、約十年前にあった、西脇病院の医師不足という出来事や今でも日本中の地方にある病院で同じように医師が不足していること。また、いろんな思いを持ってさまざまな活動を行ってくださいていることを知らないまま、大人になっていたかもしれません。私たちは、この勉強をしたことを忘れず、ここまで成長してきた中で、病気になったり、けがをしたり、風邪を引いたときに私たちを支え、助けてくださったことに感謝し、これからも過ごしていきたいです。

地域医療を守るために

黒田庄中学校 三年 吉田 凜里

私は今回、地域医療に関する話を聞いて、地域の方々のおかげで今があるということと自分もしっかりと考えなければならぬ課題であるということを感じることができました。

私はこれまで、病院があるのはあたり前だと思っていたので、今回、西脇市に病院があるのが地域の方々のおかげだと知り、とても驚きました。もちろんこの辺りは田舎なので、人手不足になったりしないのかなあと思ったことはありませんでした。だから実際に西脇市にその危険があったと聞き、驚きと同時に、急に不安な気持ちになりました。もし今病院がなくなったら、急な病気や、大きなけがの時に遠い病院に行くことになり、間に合わなくなることがあるのではと思ったからです。

現在私たちには、西脇病院と大山病院の二つがありますが、このどちらがなくなっても困ることは間違いありません。だからこそ、過去に西脇病院が危機になったとき、それをどうにかして防ごうと活動してくださいました地域の方にお礼を言いたいです。私は、日々の生活の中で、なんとかしたいとは思っても、なかなか行動に移せないことがあります。当時、病院がなくなるのは困るけれどいったいどうしたらいいのかわからない、私一人ではどうにもできないと消極的な思いしか持てない人が多い中、病院の危機という大きな問題に声をあげ、勇気をもって思いを伝え、防いでくださった方々は本当にすごいと思います。このことを知ったら、この地域に住む人なら、私と同じ思いを持たない人は一人もいないはずです。

きっとこの先も同じような問題は出てくるでしょう。ですが、今度は私たちの番です。自分たちの未来がかかっています。自分のため、地域の人たちのために動いたら、思いを発信することができたらと思います。しっかり考えていきたいです。